

令 和 7 年 度

施 政 方 針

令和7年2月17日
印西市長 藤代健吾

～目次～

1. はじめに	4
2. 令和7年度主要施策	
(1) 教育・子育て	6
教育:多様な選択肢と居場所づくりに向けて	
● ①原小学校の分離新設(学校新設)／②不足する学童クラブへの対応／③デジタル教育の推進／④学ぶ環境(インフラ)整備:特別教室・体育館への空調整備／⑤地域で育む:コミュニティ・スクール設置／⑥不登校児童生徒支援／⑦教育大綱の策定	
子育て:きめ細やかな子育て支援	
● ①給食費無償化／②送迎保育ステーション／③民間保育園補助引き上げ・民間幼稚園補助開始／④1か月児健康診査の開始	
(2) 健康・福祉	9
● ①二次救急医療機関への補助増額／②地域福祉推進体制強化と重層的支援体制整備／③福祉の総合相談窓口設置／④医療的ケア児等の居場所づくり	
(3) 公共交通	10
● ①フレアイカ対象路線拡大／②タクシー利用助成地域の拡大／③ふれあいバスルート見直し・千葉ニュータウン地区で医療機関循環ルート新設／④公共交通計画改定と個別最適な公共交通構築	
(4) 産業・商業・農業	11
産業・商業	
● ①市民生活と調和した産業誘致／②トップセールスによる産業誘致／③市独自の起業創業支援／④スポンサー獲得・地域のつながりづくり	
農業	
● ①学校給食での地産地消促進／②鳥獣被害対策強化／③農業機械等導入支援補助金	
(5) まちづくり	13
● ①新クリーンセンター整備・更なるごみの減量化・資源化／②安心安全な上下水道インフラの維持／③環境と調和したまちづくり:グリーンインフラの推進／④新たな多世代複合交流拠点:コスモスパレットⅡ開館／⑤公民連携手法の活用促進	

(6) 防犯・防災	14
● ①一般家庭における防犯カメラの購入費への助成制度新設／②災害向けの備蓄強化／③災害時の妊婦等の避難訓練／④防災体制強化へのロードマップ	
(7) 市役所体制の強化	15
「対話と議論」の場	
● ①新たな形の対話会開始	
広報機能強化	
● ①「広報いんざい」全戸配布／②広報人員増強・広報指針の策定	
経営管理体制強化	
● ①戦略的な計画策定と進捗管理体制の構築／②組織横断での取り組み強化／③市長公約のロードマップ策定	
組織再編・業務改革	
● ①組織体制の再編・見直し／②地域コーディネーターのモデル導入／③抜本的な業務改革／④DX 推進	
人事制度改革	
● ①職員採用試験での先行実施枠／②社会人経験人材のキャリアパス・処遇改善／③職員研修予算倍増:民間都市経営スクールへの派遣／④庁内公募制度(手上げ制度)導入／⑤政策アドバイザーの招聘	
経営力向上	
● ①副市長 2 人体制の円滑な導入	
<u>3. 令和7年度当初予算案の概要</u>	18
※参考 別添「令和7年度 当初予算の概要」	
<u>4. 終わりに</u>	19

1. はじめに

(1) 市民の皆さんとの「対話と議論」

令和6年7月28日の市長就任以来、約7か月が経過しようとしています。
この間、私が最も大事にしてきたことは徹底した「対話と議論」です。

これまでに、地域別、グループ別、職種別などの対話会を通じ、500名近い方々と対話してきました。

また、お声がけいただいたイベントには可能な限り出席させていただき、そうした中でも多くの声を頂戴してきました。

加えて、原小学校における過大規模校の分離新設(学校新設)といった市政の主要課題については、私自身が、地域住民や保護者をはじめとする関係者の皆さまと直接に意見交換の場を持たせていただきました。原小学校の分離新設問題に関する対話では、意見交換会に加えて、町内会や自治会などへの訪問を通じ、200名を超える方々に貴重なお時間を割いていただきました。

改めて、対話させていただいた全ての方々に御礼申し上げます。

(2) 職員の皆さんとの「対話と議論」

そして、実は、最も「対話と議論」を持たせていただいたのが、職員の皆さんです。
就任以来、様々な政策課題について、部や課といった組織の壁を越えて、徹底して議論を進めてきました。

当初は方向性が見えなかった政策課題が、議論を通じて少しずつ進むべき道が定まっていく。これは、職員の皆さんの力なくしてあり得なかったことです。

私は至らない人間です。こうした私に真摯に向き合って下さったすべての職員の皆さんに感謝申し上げます。

(3) 「対話と議論」の先にある令和 7 年度施政方針と当初予算(案)

こういった幾多の「対話と議論」の先にあるのが、令和 7 年度の施政方針と当初予算(案)です。

「対話と議論」を通じて感じたことは、印西市には多様な地域があり、多様な想いと悩みを抱えられている方々がいらっしゃるということです。

同時に、印西市がまさに転換期を迎えているということです。

私にとって、初の本格的な編成予算である令和 7 年度当初予算(案)では、先の市長選で掲げた公約を念頭に、市民ひとりひとりが抱える「喫緊の課題」に対応しながら、「未来に向けたまちづくり」の契機とすることを主眼としました。

以降、令和 7 年度の主要施策について、新規および拡充したものを中心に説明をさせていただきます。

2. 令和7年度主要施策

(1) 教育・子育て

まずは、教育・子育てです。

子どもたちは地域の宝です。子どもたちこそが地域の未来です。
全ての子どもたちと保護者の方々に寄り添った教育・子育て支援を進めます。

教育：多様な選択肢と居場所づくりに向けて

① 原小学校の分離新設(学校新設)

教育分野に関しては、喫緊の課題である原小学校の過大規模校の分離新設(学校新設)は、令和11年4月の開校を目指し用地の確保や設計などの必要な対応を進めていきます。

本件に関しては、原小学校学区から多くの児童が進学する西の原中学校の過大規模校化や隣接する牧の原小学校区における児童数の増加などについても、保護者や市民の方々から様々な声を頂戴しています。

こうした声にしっかりと耳を傾けながら、最も望ましい分離新設(学校新設)の形を模索していきます。

また、新設校の開校までには今しばらくの時間を要します。この間、既存の環境下における最善の学び場づくりに向けて努力を進めていきます。

具体的には、サポート教員の増員や、原小学区から高花小、いには野小学校への通学を希望する児童向けのスクールバスの増便を実施します。

② 不足する学童クラブへの対応

子どもたちの放課後の主要な居場所である学童クラブに関しても不足が叫ばれています。

待機児童の解消に向けて4つの学童クラブにおいて増設を進めます。

児童数の増加に伴い、今後も、学童不足が生じる懸念があります。学校施設の活用推進や学校との連携強化に向けて、学童クラブの担当課を健康子ども部より教育委員会へと移管します。

また、学童クラブを子どもたちの「安心安全な居場所」に加えて、「多様な体験・活動の機会」(学童＋塾・習いごと)とする、アフタースクール事業の展開に向けた検討も開始します。

③ デジタル教育の推進

印西市が誇る教育の強みのひとつが、デジタル教育です。

原山小学校の卒業生で構成されたチームであるブルーデージーは、令和 6 年、米国で開催されたロボット競技の世界大会において優秀な成績を収めました。

そして、その後輩の子たちもまた令和 7 年の世界大会への切符を獲得しました。

デジタル化が進む社会の中で、テクノロジーへの知見は必須です。新たなプログラミング教材の導入、新たなカリキュラムの開発、先生方を対象とした勉強会を開催します。

また、デジタル教育の推進に際し、教育 DX 推進計画の策定も進めています。

計画に示されたロードマップに沿って、日本で最も進んだデジタル教育の実現に向けた取組みを推進していきます。

④ 学ぶ環境(インフラ)整備:特別教室・体育館への空調整備

児童・生徒の環境整備に向けて、インフラ整備も重要です。

令和 8 年度までにすべての小中学校での特別教室への空調導入を完了させるとともに、体育館への空調導入も、まずは、部活動等で夏季期間中の利用も多い中学校より進めていきます。加えて、通学時のスクールバスについても、引き続き、増便等の対応を進めます。

⑤ 地域で育む:コミュニティ・スクール設置

児童・生徒と地域や地域の方々との接点づくり、そして、郷土愛を育む教育も重要です。

令和 7 年度より、段階的に各小中学校でのコミュニティ・スクールの設置を進めていきます。

また、市内では様々な団体の方々が伝統文化の継承・発展に向けた取組みを進めています。こうした伝統文化との接点を通じ豊かな心を育むことを目的に、伝統文化親子教室を開催します。

⑥ 不登校児童生徒支援

一方で、最近では、学校や教室に通えない児童・生徒が増加傾向にあり、社会問題化

しつつあります。

こうした児童・生徒の居場所づくりに向けて、現在、中学校のみで開設している校内サポート教室を小学校でも開設することとしました。また、不登校の児童生徒が利用している市内フリースクール等の民間施設に対して補助を新たに行います。

こうした支援強化に際して、不登校児童生徒支援の充実に向けた基本方針の策定を進めています。よりきめ細やかで網羅的な支援に向けた取組みを引き続き進めていきます。

⑦ 教育大綱の策定

令和8年度の教育大綱の改定に向けて、令和7年度には議論が本格化します。

しっかりと全ての子どもたちに寄り添った学びの環境と居場所づくりに向けた取組みを進めます。

子育て:きめ細やかな子育て支援

次に子育て支援に関してです。

① 給食費無償化

物価高騰による家計負担の増加等を踏まえ、引き続き、小中学校での給食費の無償化を実施します。

また、食物アレルギー等により、学校給食の提供を受けられない市立小・中学校の児童生徒の保護者に、学校給食費相当額の助成を行います。

② 送迎保育ステーション

また、保護者の送り迎えの負担軽減等に向け、送迎保育ステーションの整備を進めます。具体的には駅前等にステーションを設置し、児童を一時的に預かり、各保育所等へバス等を使って送迎するサービスの運用を令和8年度より開始します。

③ 民間保育園補助引き上げ・民間幼稚園補助開始

物価高騰の影響は保育園や幼稚園の運営にも大きな影響を及ぼしています。

民間保育園への運営補助の引き上げを実施します。加えて、これまでは対象外であった民間幼稚園に対しても新規の運営費補助を開始します。

④ 1か月児健康診査の開始

加えて、伴走型支援の一環として、赤ちゃんの発育・発達を把握し、先天性の病気等の有無の確認を行う、1か月児健康診査を開始します。

(2) 健康・福祉

次に、健康福祉に関してです。

① 二次救急医療機関への補助増額

市内二次救急体制の安定的な運営と確保が喫緊の課題となっています。
こうした状況を踏まえて、市内二次救急医療機関への補助を増額します。

② 地域福祉推進体制強化と重層的支援体制整備

地域福祉の強化に向け、令和7年4月から社会福祉課に「地域福祉推進係」を新設し、地域福祉計画の策定や重層的支援体制の整備を進めてまいります。

③ 福祉の総合相談窓口設置

令和7年4月に開所するコスモスパレットⅡにも「福祉の総合相談窓口」を設置し、高齢者や障がい等の属性を問わない相談を受けられる体制の整備を進めます。

④ 医療的ケア児等の居場所づくり

また、医療的ケア児などへの対応が可能な生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービスの機能を有した民間施設が、令和7年4月に開設されます。同施設と連携を取りながら、医療的ケア児などの日中の活動の場の充実を目指します。

(3) 公共交通

続いて公共交通に関してです。

どの地域の対話会においてもご指摘いただくのが、公共交通網の充実です。

特に、自動車免許を返納された後のシニアの方々から切実な声をいただいています。

① フレアイカ対象路線拡大

まず、高齢者の方々が無料で公共交通をご利用いただけるフレアイカの利用対象を、ふれあいバスのみから、ふれあいバスの運行地域外である印旛地区の民間路線バスにも拡大します。

② タクシー利用助成地域の拡大

また、65 歳以上で免許をお持ちでない方、または 70 歳以上の方がタクシーをご利用される際に 1 回あたり 800 円までの支援を行うタクシー利用助成について、これまでの本埜地区より全ての市街化調整区域に拡大します。

③ ふれあいバスルート見直し・千葉ニュータウン地区で医療機関循環ルート新設

ふれあいバスに関しても、現在、ルートの見直しを進めていますが、ルートの変更及び千葉ニュータウン地区における医療機関を巡る循環ルートの新設などを通じて利便性の向上を目指します。

④ 公共交通計画改定と個別最適な公共交通構築

令和 8 年度の公共交通計画改定に向けた議論が本格化するところです。しっかりと、すべての方々に寄り添った、個別最適な公共交通の構築に向けて検討を進めていきます。

(4) 産業・商業・農業

続いて、産業・商業・農業に関してです。

持続的な経済があつてこそ、はじめてまちづくりが可能となります。

産業・商業

① 市民生活と調和した産業誘致

現在、建設や計画が進むデータセンターや物流拠点に関して、引き続き、必要な支援を行っていきます。

また、最近では、こうした施設が生活圏に隣接することによる課題も生じています。今一度、市民生活と調和した産業の実現に向けて、都市計画の在り方を含めて検討を進めていきます。

② トップセールスによる産業誘致

加えて、中長期での自治体としての競争力の維持を企図した職住近接のまちの実現に向け、トップセールスによる産業界との対話を継続していきます。

③ 市独自の起業創業支援

同時に、まちの個性をつくる多様な事業者の創出に向けて、市独自の起業創業支援の取り組みを開始します。

④ スポンサー獲得・地域のつながりづくり

また、「イルミライ★INZAI」などの各種イベントにおいては、地域のつながりづくりや市内事業者からのスポンサー獲得など一過性のイベントに閉じない取り組みを進めます。

農業

① 学校給食での地産地消促進

豊かな水田を有する印西市にとって、食料安全保障も叫ばれる中、農業は重要な産業のひとつです。

現在、地産地消の推進に向け学校給食における地元野菜の更なる利用促進に向けて関係者による議論を開始しています。

② 鳥獣被害対策強化

また、深刻化する鳥獣被害対策に向けて、捕獲処分時の 1 頭当たり単価の引き上げや、地域毎にチームとして対応する鳥獣対策班の普及促進を進めます。

③ 農業機械等導入支援補助金

加えて、農業機械等導入支援補助金についても、申請件数増を見込んで大幅な予算の拡充を進めます。

(5) まちづくり

続いては、まちづくりに関してです。

昨今、インフラの維持が大きな課題になっています。

① 新クリーンセンター整備・更なるごみの減量化・資源化

令和 6 年 12 月末には、印西クリーンセンターにおいて火災が発生し、多くの市民の皆さまにご迷惑をおかけしました。令和 10 年度の稼働を目指す新たなクリーンセンターの整備に向け、印西地区環境整備事業組合と連携を取りながら、より安心安全なごみ処理とごみの減量化・資源化を推進します。

② 安心安全な上下水道インフラの維持

安心安全な上下水道インフラの維持への関心も高まっています。水道管の計画的な整備とともに、下水道施設の機能を安定的に維持していくため、施設の老朽化対策や地震対策を計画的に進めます。

③ 環境と調和したまちづくり：グリーンインフラの推進

また、印西市は、令和 6 年 5 月に、ゼロカーボンシティ宣言を行いました。

昨今、自然をインフラとして活かすグリーンインフラという概念も提唱されています。

印西市が有する多様な自然環境と都市機能を活かしながら、真に環境と調和したまちづくりを目指します。

④ 新たな多世代複合交流拠点：コスモスパレットⅡ 開館

公共施設や空間の活用も、市民サービスや市の魅力向上にいて重要です。

千葉ニュータウン駅圏の新たな多世代複合交流拠点として、令和 7 年 4 月には、コスモスパレットパレットⅡが開館します。

⑤ 公民連携手法の活用促進

また、木下にぎわい広場の活用、Park PFI などを通じた公園等の活用についても、公民連携手法を用いつつ検討を進めていきます。

(6) 防犯・防災

続いては、防犯・防災です。

① 一般家庭における防犯カメラの購入費への助成制度新設

対話集会の中でも、闇バイト等の凶悪・巧妙化する犯罪に対する危機意識の高まりを感じています。

こうした状況を踏まえ、一般家庭における防犯カメラの購入費への助成制度を新設します。

② 災害向けの備蓄強化

また、激甚化する災害への備えも不可欠です。

予算を増額し、災害用マンホールトイレの設置とともに、携帯トイレや簡易トイレ、段ボールベッドなどの資機材の備蓄強化を図ってまいります。

③ 災害時の妊婦等の避難訓練

加えて、災害時保健活動訓練(助産訓練)として、妊産婦等の避難を対象とし、助産協定をもとに、関係機関と連携して訓練を実施します。

④ 防災体制強化へのロードマップ

現在、防災体制強化に向け、担当課にロードマップを作成いただいています。今まで想定されていなかった災害が起こる前提のもと、対応強化を進めていきます。

(7) 市役所体制の強化

以上の施策を実行するためには、市役所体制の強化が不可欠と考えています。

「対話と議論」の場

① 新たな形の対話会開始

引き続き、徹底した「対話と議論」を進めます。

各種の対話会を継続するとともに、財政・予算説明会などの新たな取り組みも開始します。

広報機能強化

同時に、広報機能の強化も重要です。

施策は、必要とされる方々に知ってもらい、使ってもらってこそ初めて効果を発揮します。

① 「広報いんざい」全戸配布

広報いんざいに関しては、10 月 1 日号より月 1 回の市内全戸配布を実施してまいります。

② 広報人員増強・広報指針の策定

また、人員増強や広報に関する指針策定等を通じて強化を図ります。

経営管理体制強化

経営管理体制の強化も重要な課題です。

① 戦略的な計画策定と進捗管理体制の構築

令和 8 年度に向けて現総合計画下での後期基本計画が策定されます。

同時に、各種計画の改定を迎えます。

大事なことは、計画づくりを外部に任せないこと、そして、計画を着実に実現することです。

より効果的に戦略目標を達成する計画策定及び進捗管理体制の構築を目指します。

② 組織横断での取り組み強化

特に、組織横断的な課題に対しては、経営陣がしっかりとコミットするとともに、階層ごとに柔軟なプロジェクトチームの編成を進めます。

③ 市長公約のロードマップ策定

基本計画の策定と並行し、先の市長選で掲げた公約に関し、実現へのロードマップをお示しさせていただきます。

組織再編・業務改革

あわせて、組織再編や業務改革も推進します。

① 組織体制の再編・見直し

印西市を取り巻く環境と市民ニーズを踏まえ、令和 8 年度に向けて現行の部・課体制の大幅な再編・見直しを進めていきます。

この中で、企画財政部内に新たな室を立上げ、地域別の公共施設整備のあり方、分散型の市役所づくりに向けた支所・出張所の機能強化などについても検討を進めます。

② 地域コーディネーターのモデル導入

なお、地域コーディネーターに関しては、先行して木下地区をモデルとして導入を予定しております。

③ 抜本的な業務改革

増え続ける業務に対して職員の負担が高まっている状況を踏まえ、より抜本的な業務改革も進めます。

令和 6 年後半に全職員を対象に実施したアンケート調査では、多種多様な意見を頂戴したところです。全庁横断でのプロジェクトチームを立上げ、ひとつずつ施策推進を進めていきます。

④ DX 推進

この中で、DX は欠かせない打ち手のひとつです。電子行政の推進に向けた方針策定、DX 推進体制の強化に向けた組織再編、階層別研修を通じた人材育成、常勤の外部人材の登用を進めます。

さらに、フロントヤード改革として「書かない窓口」の実現に向けた検討を進めます。

人事制度改革

そして、忘れてはならないのが、人事制度改革です。人材こそが市役所最大の財産です。

多様な人材が活躍できる職場づくりを進めます。

① 職員採用試験での先行実施枠

令和 8 年度の職員採用試験より新たに先行実施枠を設け令和 7 年 3 月より募集を開始します。

② 社会人経験人材のキャリアパス・処遇改善

また、社会人経験人材のキャリアパスの明確化や処遇改善などの施策を進めます。

③ 職員研修予算倍増:民間都市経営スクールへの派遣

挑戦する人材を支援し評価する仕組みも重要です。

職員育成に向けた研修予算を倍増させました。外部講師を招聘した研修機会の充実に加えて、民間の都市経営スクール等への職員派遣を行います。

④ 重点政策テーマ担当者の庁内公募(手上げ制度)導入

加えて、主要な政策テーマを担当するポジションに対し庁内公募による手上げ制度を導入しました。また、人事評価制度についても抜本的な見直しを進めます。

⑤ 政策アドバイザーの招聘

こうした市役所体制の強化に向けては、外部知見の活用も不可欠です。各分野において先進的な知見を有する政策アドバイザーの招聘を進めます。

経営力向上

最後に経営です。

私自身、これまでのキャリアの中で、官民間問わず何百という組織と関わってきましたが、経営、特に、経営層の在り方が、組織の命運を決めてくる姿を何度も目の当たりにしてきました。

① 副市長 2 人体制の円滑な導入

まずは、市長である私自身が、経営力を向上させていくこと。これが大前提です。

そして、副市長 2 人体制の円滑な導入を通じて、経営の強化を図って参ります。

3. 令和 7 年度当初予算案の概要

こうした施策の実行に向けて、令和 7 年度当初予算案の一般会計は、前年度比9. 5パーセント増の570億6千万円、特別会計等を合わせた総予算額は、前年度比6. 9パーセント増の795億8千17万8千円となります。

近年、人口増や市民ニーズの増加等に伴い財政規模も拡大傾向にありますが、引き続き、効率的で効果的な財政運営に務めてまいります。

なお、令和 8 年度に向けて財政計画の改定を予定しています。

財政の健全性と持続可能性を前提に、「喫緊の課題への対応」と「未来への投資」とを両立させる計画づくりを進めます。

4. 終わりに

市政運営において、私が最も重視するものは「対話と議論」です。

先に申し上げた、市民、職員の皆さんはもちろんのこと、「対話と議論」を重ねるうえで最も大切なのが、市議会の皆さんであると考えています。

今回の令和7年度当初予算案において新規施策として計上させていただいたもののいくつかは、市議会の場における議員の皆さんとの「対話と議論」をきっかけとしたものです。

時に意見が異なる場合もあるかと思いますが、引き続き二元代表制の両翼として、建設的な対話を重ねさせて頂きたく存じます。

以 上